

渋谷サクラステージ 渋谷駅中心地区デザイン会議 協議内容について

01. 建物概要

所在地 東京都渋谷区桜丘町123番ほか（地番）
事業主体 渋谷駅桜丘口地区市街地再開発組合
施行面積 約2.6ha
建物規模 SHIBUYAサイド（A街区）：延床面積約184,700m²/地上39階、地下4階/高さ約179m
SAKURAサイド（B街区）：延床面積約69,100m²/地上30階、地下1階/高さ約127m
C街区：延床面積約820m²/地上4階/高さ約16m
用途 SHIBUYAサイド（A街区）：事務所、店舗、駐車場等
SAKURAサイド（B街区）：住宅、事務所、店舗、サービスアパートメント、駐車場等
C街区：教会等



外観

02. デザインコンセプト

沿道や坂道、広場を活かし、渋谷駅から南側市街地へとまちや人の流れをつなぐ、にぎわいある景観形成

近景

- ①桜丘らしさを発信する“見る・見られる”関係の創出
- ②沿道や坂道、広場を活かした“回遊空間”の創出

- 桜丘のアクティビティを表出させる「視認性」「透明性」の高い駅前のランドマーク
- 南側市街地へと展開するにぎわいと緑が織り成す回遊空間

中景

- ③各方面との“呼应”と“調和”を図ったファサードデザイン
- ④“立体的な緑のネットワーク”の形成

- 周辺地区・街区とにぎわいや緑が「呼应」・「調和」したデザイン
- 南側市街地の景観を受け止め、分節化などによる住環境の演出と圧迫感の軽減を図ったデザイン

遠景

- ⑤渋谷駅周辺開発と一体となった“スカイライン”の形成

- 渋谷駅街区東棟を頂点とし、周辺開発とともに調和を図ったスカイライン

03. 最終イメージ



アーバン・コア



SAKURAサイド（B街区）貫通路



ときめきSTAGE・歩行者デッキ



はぐくみSTAGEへつながる沿道空間

04. デザイン会議協議内容 (※抜粋)

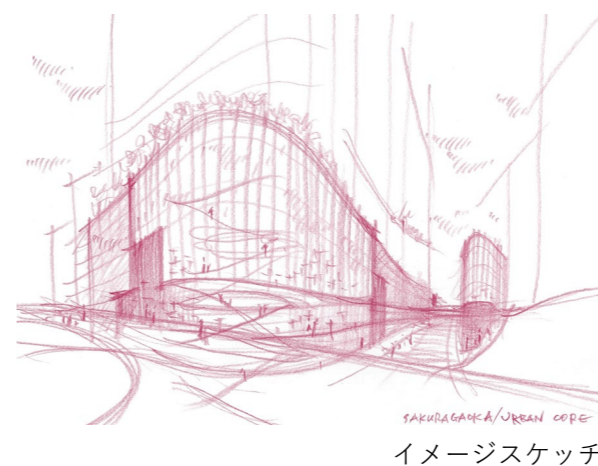
アーバン・コア

指針 ▶ 渋谷らしい、エリアや沿道ごとに個性ある街並み、多様な界わい、活気とにぎわい景観の形成



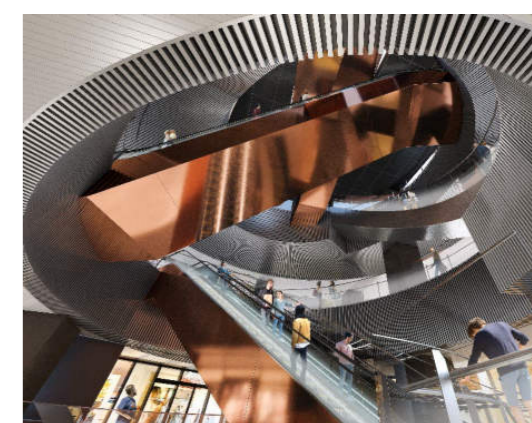
指摘

- アーバン・コアやストリートなどのゲート性や視認性の向上に配慮すること。
- 桜丘の世界観が周囲に染み出すような大胆なデザインを期待する。



対応策

外装サッシュの透明性を高め、積層する吹き抜けと動線を強調した内部の回遊空間への見通しを確保した。



アーバン・コア内部

個性ある空間のつながり

指針 ▶ 渋谷の玄関口に相応しい、様々なアクティビティが感じられる駅前の顔の形成

指摘

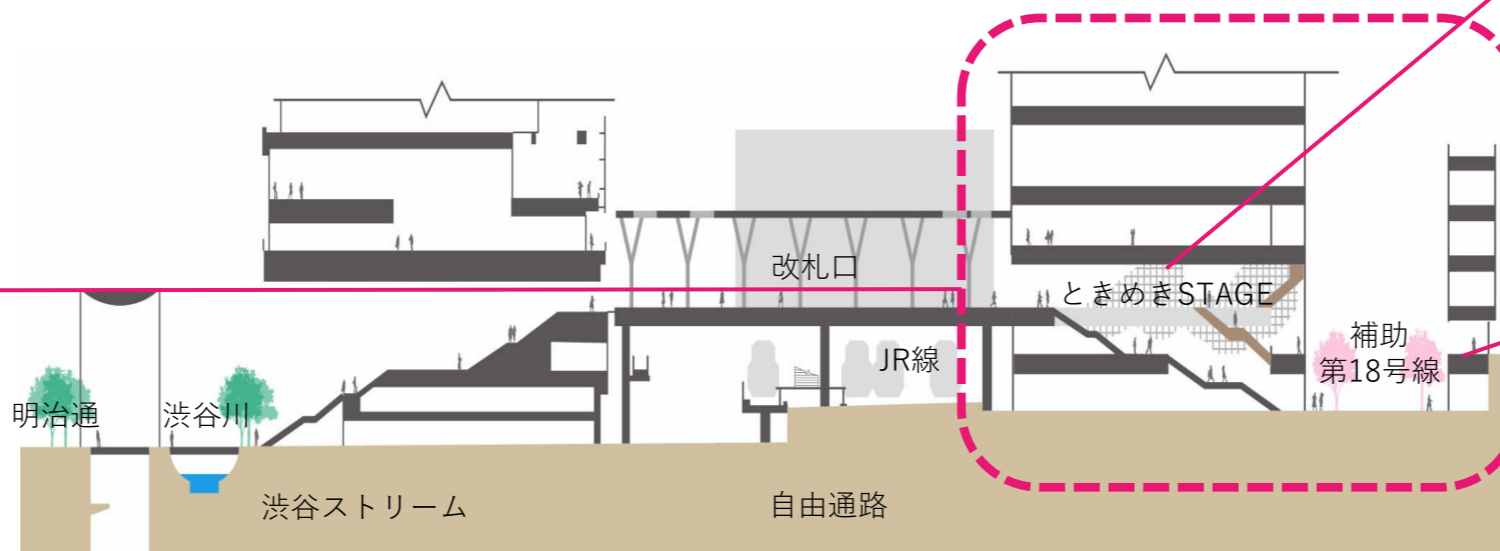
街区全体が大きな計画なので、ノードとなるようなところの際立ち、個性化を望みたい。

対応策

自由通路を介し、ときめきSTAGEと渋谷ストリームが接続し、各々の個性が感じられる大階段とサイネージによるデジタル空間を形成。桜丘口地区の桜並木、自由通路の樹木状の列柱、渋谷川沿いの並木が連携することにより、南側まちづくりにおける一連のストリート強化した。



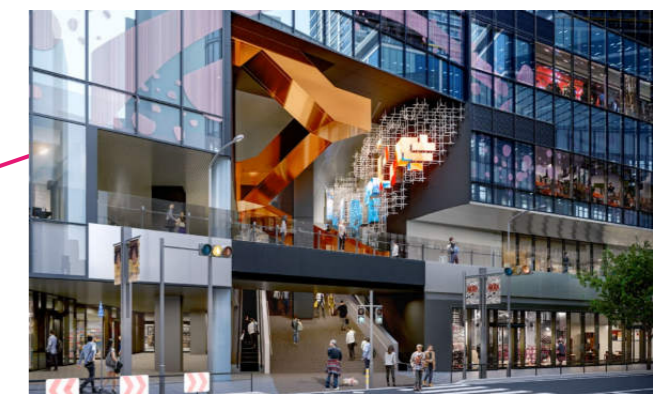
連続したにぎわいが感じられるJR側ファサード



渋谷サクラステージ



大階段とサイネージ



ときめきSTAGEによる補助第18号線の顔づくり